8B-2
No. 66

アルバイト生徒の就労状況

昭和48年5月

労働省婦人少年局年少労働課

年少労働課
資料 No. 99

はしがき

アルバイト生徒については、人手不足も原因して、最近はその数も増加し、それに関連して問題も少なくない。このため、本資料は、一般の参考のために、高校生、中学生のアルバイトについて昭和46年10月に調査した結果を中心にして、とりまとめたものである。

昭和48年5月

労働省婦人少年局年少労働課

目　　次

Ⅰ　はじめに …… 1

Ⅱ　アルバイト生徒の就労状況 …… 1

1.　アルバイトについての学校の態度 …… 1

2.　就労時期別にみた就労生徒の状況 …… 3

3.　調査対象生徒数等 …… 4

4.　アルバイトの種類 …… 5

5.　就労日数 …… 5

6.　就労時間 …… 7

7.　アルバイトの収入 …… 7

8.　アルバイト収入の使い方 …… 8

9.　アルバイトの疲労感 …… 10

10.　アルバイト継続についての意識 …… 11

Ⅰ はじめに

このアルバイト生徒の就労状況は、全国の高等学校１００校と中学校200校において、昭和４５年９月から昭和４６年８月までの１年間にアルバイトをしたことのある高校生6,４５９人と中学生3,５６７人を対象として昭和４６年１０月に調査をしたものをとりまとめたものである。

調査の内容は、アルバイトについての学校の態度や、就労の時期、就労日数、アルバイトの種類、収入の使い方などで、以下はその概要である。

Ⅱ アルバイト生徒の就労状況

1 アルバイトについての学校の態度

調査対象となつた中学・高校において、在校生徒のアルバイトについての学校の態度をみると、「アルバイトをする時は学校の許可をうけることにしている」が最も多く、中学校においては52.0％高校においては７６.６％である。つぎに多いのは、「アルバイトをすることは生徒の自由であるが届出ることになつている」で、中学校１９.１％、高校１１.４％となつている。生徒がアルバイトすることを禁止している学校がかなりあり、中学校で１７％、高校で6.２％ある（第１表）。

第１表　アルバイトに対する学校の態度構成比

学校の態度	中学		高校	
	実数	％	実数	％
総数	9,１２９	１００.０	3,５３４	１００.０
就労禁止	1,５４８	１７.０	２２３	6.2
許可制	4,７６４	52.0	2,７０２	７6.6
届出制	1,８１１	１９.１	４０４	１１.４
その他・不明	1,００６	１０.９	２０５	5.8

前述のとおり生徒がアルバイトをするときには、学校の許可を必要とする中学・高校が多い（中学52.0%、高校76.6%）が、その許可条件は第2表のとおりである。中学・高校ともに「保護者の許可を受けていること」、「学業成績が水準以上であること」を許可条件にあげているものが多く、前者は中学校26%、高校33%、後者は中学20.2%、高校25.9%である。

第2表　学校のアルバイト許可条件構成比

（M．A）

許可条件	中学	高校
回答校数	100%（4764）	100%（2702）
業務が安全であること	（11.7）	（24.5）
夜間の就業でないこと	（4.0）	（13.1）
風俗営業でないこと	（7.4）	（38.6）
休業期間中であること	（0.9）	（7.0）
継続20日以内であること	（0.1）	（9.7）
健康が良好であること	（10.3）	（3.9）
学業成績が水準以上であること	（20.2）	（25.9）
保護者の許可を受けていること	（26.0）	（33.0）
許可願を提出すること	（9.8）	（9.3）
雇主の申請書を提出すること	（5.5）	（2.7）
収入の使途が健全であること	（11.7）	（24.5）
その他	（11.0）	（37.9）
不明	（2.5）	（0.7）

注　二以上回答しているものがあるので計は100をこえる。

「風俗営業でないこと」「夜間の就業でないこと」を許可条件としているものは中学よりも高校に多く、それぞれ38.6%、13.1%となつてい

る。「業務が安全であること」「収入の使途が健全であること」は中学・高校ともに相対的に多く、それぞれ中学１１.７％、高校２４.５％である。

2　就労時期別にみた就労生徒の状況

アルバイトをしている生徒の就労時期をみると、中学・高校ともに夏休みが多く、在校生に対する率をみると中学2.6％、高校9.6％である。一年間をとおして就学日に就労している生徒は中学は2.1％で比較的に多いが、高校は1.1％にすぎない。冬休み、春休みに就労している生徒は中学よりも高校に多く、それぞれ高校在校生の4.7％、2.6％となつている（第３表）。

第３表　就労時期別就労生徒の在校生数に対する率

就労時期	中学	高校
在校生総数	100.0	100.0
冬休み	1.3	4.7
春休み	1.2	2.6
夏休み	2.6	9.6
就学日	2.1	1.1
日曜祭日	1.2	1.1
就労時期不明	0.1	0

また、就労生徒の状況を性別にみると中学において、就労している生徒は各時期をとおして男子が圧倒的に多く、女子は総数の１割～２割にすぎず、女子が就労している割合が最も多い夏休みであつても１９％である。

高校においては中学とはかなり異なり女生徒の就労が多くなつており、夏休みで３７.６％、冬休みは４９.６％、就学日においても２３％が就労している（第４表）。

第４表　就労時期、性別就労生徒構成比

就労時期	中学			高校		
	総数	男	女	総数	男	女
冬休み	100	85.6	14.3	100	50.2	49.6
春休み	100	87.6	11.0	100	64.8	35.2
夏休み	100	80.9	19.0	100	52.0	37.6
就学日	100	89.5	10.4	100	76.8	23.0
日曜・祭日	100	86.2	13.7	100	60.8	39.1
就労時期別不明	100	84.3	10.1	100	53.2	26.4

注　男女別不明があるために、男女計が１００にならない。

３　調査対象生徒数等

個人調査の対象となつた就労生徒の実人員数は、中学生3,567人、高校生6,459人である。これら生徒の調査期間１年間における就労している時期をみると、中学生と高校生では異なつており、中学生は毎日働くものが多く（41.2％）、つぎが「夏休み」（32％）であるが、高校生では「夏休み」が最も多く46％で、「冬休み」（24.2％）がこれについでなつている（第５表）。

第５表　就労時期別調査対象生徒数及び構成比

項目	中学生		高校生	
	実数	％	実数	％
総件数	4,351	100.0	10,442	100.0
毎日	1,797	41.2	595	5.7
日曜・祭日	590	13.6	526	5.2
夏休み	1,390	32.0	4,808	46.0
冬休み	273	6.3	2,537	24.2
その他	301	6.9	1,976	18.9

注　調査対象実人員数は中学生3,567人、高校生6,459人であるが、１人で２件以上就労しているものがいるので総件数と実人員（総数）は一致しない。

4　アルバイトの種類

毎日アルバイトするものについてその種類をみると、中学生では配達が圧倒的に多く、そのなかでも新聞配達（78.3％）が多く、つぎが牛乳配達（18.6％）である。高校生においても配達が約7割で、その多くが新聞配達（48.2％）であるが、販売店員（10.9％）、製造工（4.5％）として働いているものもいる（第6表）。

第6表　毎日アルバイトをするものの職種別件数構成比

仕事の種類		中学生	高校生
総件数		100.0％	100.0％
配達	小計	98.1	69.7
	新聞	78.3	48.2
	牛乳	18.6	13.4
	郵便	0.1	0.3
	その他	1.1	7.8
製造工		—	4.5
販売店員		0.7	10.9
飲食店員		—	2.5
事務員		—	0.2
土木工事		—	—
農作業		—	0.2
その他		1.2	11.9

5　就労日数

アルバイトをしている生徒の就労日数についてみると、毎日働いている場合は、中学生のほうが高校生よりも長期間働いているものが多い（第7表。

第７表　年間就労日数構成

―― 毎日働くもの ――

就労日数階層	中学生	高校生
総件数	100.0 %	100.0 %
30日～50日未満	7.1	15.6
50日～100日未満	15.7	18.7
100日～200日未満	21.6	18.5
200日～300日未満	10.9	8.6
300日以上	40.5	29.9
不明	4.2	8.7

第８表　アルバイト就労日数構成比

―― 夏・冬休み、日曜祭日に働くもの ――

就労日数階層	中学生			高校生		
	夏休み	冬休み	日曜・祭日	夏休み	冬休み	日曜・祭日
総件数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
5日未満	31.2	33.0	61.9	7.4	8.0	39.2
5日～10日未満	22.6	42.1	15.1	14.8	38.4	26.6
10日～20日未満	24.4	20.9	12.4	40.2	45.7	13.1
20日～30日未満	10.3	2.6	3.9	27.4	5.7	5.5
30日～50日未満	9.1	—	3.2	8.8	30日以上	4.9
50日以上	0.6	—	1.0	0.2	0.8	3.6
不明	1.9	1.5	2.5	1.2	1.7	7.0

また、夏・冬休みや日曜・祭日に働く生徒の就労日数は毎日働くものとは異なり、高校生は中学生よりも就労日数が長いものが多い。(第８表)

6　就労時間

1　日当り就労時間をみると、第9表にみるように中学生よりも高校生のほうが、就労時間の長いものが多くなつている。

毎日働くものについてみると、中学生では2時間未満の就労生徒が圧倒的に多く85.8%であるが、高校生では2時間未満は50.7%で、3時間以上就労しているものは中学生2.1%に対し、高校生では23.9%である（第9表）。

第9表　1日当たり就労時間構成比

―― 毎日働くもの ――

就労時間階層	中学生	高校生
総件数	100.0%	100.0%
1時間未満	35.7	11.9
1～2時間未満	50.1	38.8
2～3時間未満	11.9	24.4
3時間以上	2.1	23.9
不明	0.1	1.0

7　アルバイト収入

アルバイト収入については記入しないものが多く、かつ、賃金形態が時間給、日給、月給、一件数当り○円など多種多様であるが、毎日働くものについて一応月単位で支払われていると答えたものについてみると第10表のとおりである。中学生では5,000円未満が多く73.3%であるが、高校生は5,000円未満は31.6%にすぎず、6,000円以上が36.3%である。

第１０表　　１月当りアルバイト収入構成比

――――毎日働くもの――――

収入階層	中学生	高校生
月当りで支払われるものの数	100.0 （1,386人）	100.0 （281人）
5,000円未満	73.3	31.6
5,000円～6,000円未満	7.8	13.2
6,000円未上	15.7	36.3
不明	3.2	18.8

8　アルバイト収入の使い方

アルバイトで得た収入はどのように使つているでゐろうか。第１１表に示すとおり、中学生、高校生ともに家計費、授業料等の不足を補うことにゐてているものは少なく、こづかい（中学生３４.１％、高校生３８.３％）、ほしいものの購入（中学生３３.１％、高校生３５.１％）が多く、将来のための貯金がこれについでいる。

第１１表　　アルバイト収入の使い方構成比

使い方	中学生	高校生
計	100.0%	100.0%
家計費	4.1	2.0
授業料等	1.5	2.8
将来のための貯金	24.8	13.5
こづかい	34.1	38.3
ほしいもの購入	33.1	35.1
その他	2.2	7.0
不明	0.1	1.3

アルバイト収入で「ほしいものを買いたい」と答えたものに、「何が買いたいのか」具体的に記入してもらつたところ、衣服類と答えたものが圧倒的に多く、第1位である。つぎに多いのは、オートバイ、バイクなどの乗物類で、レコード、ギターなど楽器、ラジオ、本、参考書類、カメラ、スポーツ用品などがほしいといつているものが多い。中学生と高校生とでは、異なつた傾向がみられ、学用品は中学生に多く、オートバイ、バイクは高校生に多い。また性別にみても違いがみられ、乗物類、楽器類、スポーツ用品などがほしいというものは男子に多く、女子は少ない（12表）。

第12表　ほしいものの種類の順位と指数

総数の順位	項目（ほしいもの）	計	中学 男	中学 女	高校 男	高校 女
1	衣服類	100	100	100	100	100
2	オートバイ、バイク	31.7	—	—	94.3	0.5
3	レコード	26.7	38.9	6.5	49.7	8.9
4	ラジオ	21.1	47.0	3.2	39.5	1.3
5	ギター	18.8	26.8	4.8	34.4	11.2
6	本・参考書類	16.4	24.8	17.7	29.3	8.9
7	カメラ	14.0	25.5	5.6	24.3	3.6
8	スポーツ用品	13.8	49.0	11.3	13.5	1.5
9	自転車	11.5	65.1	4.0	3.0	0.8
10	ステレオ	11.1	19.5	0.8	23.4	0.8
11	学用品	11.0	31.5	27.4	4.5	3.6
12	テープレコーダー	9.4	21.5	3.2	15.9	1.3
13	スキー用品	6.9	9.4	0	12.9	3.0
14	時計	5.7	16.1	3.2	4.5	3.6
15	釣具	5.5	24.2	0	5.7	0

注　アルバイト収入で「ほしいものを買いたい」と答えたものに、具体的な品名の記入を依頼したところ、６８種類にのぼつた。このうち１５位までの順位を第１位を１００とする指数で掲載した。

9　アルバイトの疲労感

アルバイトが生徒の健康にどのような影響を与えているかを知るために、就労している生徒の疲労状況についてたずねることとした。

毎日就労している生徒についてみると、半数以上のものは何とも感じていないと答えている（中学生６２.９％、高校生５０.４％）。しかし、ややつかれるというものもかなりおり、中学生では３２.１％、高校生では38.6％である（第１３表）。

第１３表　毎日就労する生徒の職種別疲労感構成比

項目		総数	配達			販売店員
			小計	新聞	牛乳	
中学生	総件数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	非常につかれる	2.3	2.3	2.3	1.5	
	やや つかれる	32.1	31.6	33.2	25.2	
	何とも感じない	62.9	63.5	61.9	70.3	
	その他	2.4	2.2	2.3	2.1	
	不明	0.4	0.4	0.3	0.9	
高校生	総件数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	非常につかれる	5.4	5.3	3.4	2.3	13.8
	やや つかれる	38.8	31.5	33.6	23.6	42.6
	何とも感じない	50.4	58.2	57.5	61.6	39.2
	その他	3.5	4.7	3.4	10.6	1.1
	不明	2.4	2.3	2.1	2.3	3.3

10 アルバイト継続についての意識

今後もひきつづきアルバイトをするかどうか質問したところ、「この一年間位の量でよいからひきつづきアルバイトをつづけたい」、というものが多く、中学生は３９.４％、高校生の４６.５％となつている。ついで「もつと量をふやしたい」というものが、中学生は２４.９％、高校生は３１.９％となつており、アルバイトを継続すると答えたものは、中学生では68.7％、高校生では８４.６％となつている。

第１４表　アルバイト継続意識構成比

項目	中学生	高校生
総数	１００.０％	１００.０％
量をふやしたい	２４.９	３１.９
この一年間位の量でよい	３９.４	４６.５
量をへらしたい	４.４	６.２
やめたい	１８.５	７.７
その他	１０.８	５.９
不明	２.０	１.９

一方、「アルバイトはやめたい」と思つているものは中学生の１８.５％、高校生では７.７％を占めている（第１４表）。

GAa1／1

8B－2－66

女性と仕事の未来館

館内

0096493 8